

てくれて、いろんな言語でまずリストを出してくれて、自分がそれに沿ってプレイリストを作って〔……〕ダウンロードの仕方全部教えてくれる人がいるので、それを見てやりました。(C氏 2020/10/29)

Cはこう述べ、自身が作成したアプリ内の再生リストと、アプリ登録の際に参考にしたという韓国人ファンがまとめたスミンリストの画像を見せてくれた。このように韓国アプリでスミンする場合、韓国のApple ID作成が必要となる。そのためA氏、C氏ともに自身のハングルの知識に加えて、日本人ファンが翻訳した詳細なID作成まとめを参照しながらアプリの登録を行ったのだという。またginieのほか、Bugsも日本から本人認証なく月額単位で利用券が購入できる<sup>[10]</sup>。

このように、手間をかければ日本からも利用できるアプリがあるにもかかわらず、それでもなお、“韓国でしか使えない”ことに付加価値を見出し、Melonでスミンがしたいという日本人ファンもいる。G氏は、2017年、韓国に住む韓国人の友人ファンに頼んで、韓国の電話番号を借り、登録用のIDを取得したという。利用券代金はネットバンキングで友人に振り込み、結果、日本でもMelonが使えるようになったと語る。

EXOのときにやってたスミンはMelonってアプリでやってて。〔……〕一位を獲らせたいというのもあるし、スミンやってる自分好きっていうか、なんか貢献できてる感があるっていうか。あははは。〔……〕自分の力で韓国の

友達に番号借りたのは2018、2019年とかですかね。〔友達とは〕LINEで話してますね〔……〕LINEのグループに翻訳を入れると、勝手に韓国語で入れてくれるんですよ。でも私も韓国語ががんばりたいから、分からないのは翻訳機を使ってます(G氏 2020/11/13)

一見、スミンとはアプリで音楽を再生するだけの極めて私的な行為に思われる。しかし、実際には言語や文化の壁を超え、ルールや作法をSNSで共有しあい、また目的に向かってファン同士が呼びかけ合う、トランス・ナショナル／カルチュラルな協働のプロセスなのである。そのため、H氏のように、登録の難しさから韓国国内のアプリの利用を断念し、「YouTubeの公式MV動画とApple MusicのDL数」で「MONSTA Xの楽曲をスミンしている」というファンもいた。このように、スミンは国際的なファン仲間との繋がりという社会関係資本や、ハングル／英語のリテラシーといった文化資本が複雑に絡み合う実践なのである。

### (3) 労働、余暇、睡眠時間にも浸潤するスミン

スミンが“越境”するのは国家や文化、言語の差異だけではない。音楽アプリの技術的性質上、スミンは「労働／余暇」という旧来的な区分、さらには趣味に費やしうる可処分時間という枠組みすらも超えていく。前出のC氏はこう語る。

プレイリスト作ります、あとはただ再生するだけで、24時間、無音でずっ